

平成20年度

奈良県における石綿の健康リスク調査報告書

奈良県

# 奈良県における石綿の健康リスク調査報告書

## 目次

1. 目的	1
2. 内容	1
(1) 調査対象者	1
(2) 調査期間	
(3) 調査内容	1
(ア) 問診及び登録	1
(イ) 検査の実施	1
(ウ) 医学的所見に基づく初回検診以降の継続調査対象者の選定	1
(エ) 平成21年度の継続調査	2
(オ) データの集約	2
3. 結果	2
(1) 調査協力者数	2
(2) 調査協力者の受診状況	3
(3) 調査協力者数の医学的所見・ばく露歴の整理	4
4. まとめ	4
5. 石綿の健康リスク調査に参加し、医療の必要があるとされた者の診断経過について	5
6. データ	6
7. 参考資料	29

## 1. 目的

一般環境を経由した石綿ばく露による健康被害の可能性があった奈良県において、県全域の石綿関連工場等の周辺住民及び居住歴のある住民等に対して、問診、胸部X線検査、胸部CT検査等を実施することにより、石綿ばく露の医学的所見である胸膜プラーク等の有無や、健康影響との関係に関する知見を収集し、石綿のばく露歴や石綿関連疾患の健康リスクに関する実態把握を前年度に引き続き本調査を行った。

## 2. 内容

### (1) 調査対象者

本調査に応募した者で平成元年12月31日以前に奈良県に在住し、原則、現在も奈良県に居住する者で、一般環境を経由した石綿ばく露による健康被害の可能性があり、今回の調査に同意を得られた者。

なお、上記以外の応募者についても石綿ばく露の可能性があり、調査の同意が得られた場合は調査協力者として本調査に加えた。

### (2) 調査期間

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

### (3) 調査内容

#### (ア) 問診及び登録

平成20年度の新たな調査対象者は県広報誌、県内市町村広報紙等により募集した。

応募者に対し、保健所等において保健師等立ち会いの下、問診票を用いた問診を実施した。ばく露の可能性が認められた者に対し、本調査事業の説明を行い、調査協力に対する同意を得られた者に、胸部X線検査、胸部CT検査等の精密診断を実施するに当たっての医療機関への受診券を発行し、石綿検診記録帳を渡した。

平成19年度の調査継続者には、調査協力依頼と問診票を送付し協力の了承が得られた者に、胸部X線検査等の精密診断を実施するに当たっての医療機関への受診券を発行した。

#### (イ) 検査の実施

調査対象者は、精密診断を受診するに当たり、奈良県が発行した受診券を指定医療機関（県立奈良病院、県立三室病院、国立病院機構奈良医療センター、奈良県健康づくり財団、済生会中和病院）に提出し、胸部X線検査、胸部CT検査、診察を行った。なお、継続調査対象者は、胸部X線検査を原則とし、必要に応じて胸部CT検査等を行った。

なお、過去1年以内に胸部X線検査やCT検査を受診している調査対象者については、その際の胸部X線、CT検査のフィルムの提供を求め、原則、胸部X線及びCT検査は実施しなかった。

検査結果については、各指定医療機関より迅速に本人に伝えるとともに奈良県石綿ばく露健康リスク調査専門委員会（以下「専門委員会」という。）にて再度読影を行った後、調査協力者に専門委員会から結果通知を行い、調査登録台帳に登録した。

#### (ウ) 医学的所見に基づく初回検診以降の継続調査対象者の選定

専門委員会において、胸部CTの再読影を行い、その際に軽微なものも所見と判断するよう努めながらA表の注1のとおりに分類し、その後の追跡調査は以下のように対応していくこととした。

##### 【医学的所見に基づく選定】

- ① 石綿健康被害救済法の対象疾病となった者は、その時点で調査終了とする。

- ② 石綿ばく露に関する医学的所見が認められる者のうち、医療の必要がないと判断された者は、経過観察とする。
- ③ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められる者のうち、医療の必要があると判断された者は、調査終了とするが、治療終了後に調査対象者に含めることは妨げない。
- ④ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められない者のうち、医療の必要がないと判断された者は、経過観察とする。
- ⑤ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められない者のうち、他の疾病により医療の必要があると判断された者は、調査終了とするが、治療終了後に調査対象者に含めることは妨げない。

平成19年度に上記②または④と判断された者については、平成20年度に受診勧奨を行った。ただし、主治医の指示などにより1年未満に実施した胸部X線検査の結果、要精密検査となった場合は、それ以降の一連の検査について、本事業の対象範囲として取り扱うこととした。なお、①、③及び⑤の対象者については、できる限り調査対象者に同意を得た上で、治療経過等の把握に努めた。

#### (エ) 平成21年度の継続調査

前記【医学的所見に基づく選定】で②または④と判断された者は、奈良県が受診勧奨し、原則年1回の胸部X線検査、必要に応じ胸部CT検査等を実施する。

なお、平成21年度の検査内容及び受診の必要性の可否は、平成20年度の検査結果等を総合的に勘案して判断するものとする。

#### (オ) データの集約

奈良県は、上記(ア)～(エ)の一連の作業について、専門委員会において意見を聴取して、データ集約を行った。

### 3. 結果

#### (1) 調査協力者数

問診・胸部X線検査、胸部CT検査を受診・資料提供した者 535 人（継続 212 人、新規 323 人）

内訳は、

- ① 平成元年以前に奈良県に居住し、現在も奈良県に居住している者 511 人
- ② 平成元年以前に奈良県に居住していたが、現在は奈良県に居住していない者 10 人
- ③ その他の者 14 人（平成2年以降に奈良県に居住していた者）

#### 市町村別受診者数(調査時の居住地)

市町村名	①	②	③	計	市町村名	①	②	③	計
奈良市	12 (4)			12 (4)	香芝市	8 (4)			8 (4)
天理市	1			1	橿原市	13 (9)			13 (9)
大和郡山市	13 (7)		1 (1)	14 (8)	葛城市	1			1
生駒市	2 (1)		1 (1)	3 (2)	桜井市	4 (4)			4 (4)
平群町	8 (4)			8 (4)	広陵町	13 (6)			13 (6)
三郷町	32 (25)		1 (1)	33 (26)	河合町	14 (8)			14 (8)
斑鳩町	219 (143)	1	6	226 (143)	五條市	3 (2)			3 (2)
安堵町	3 (2)			3 (2)	吉野町	3 (2)			3 (2)
下市町			1 (1)	1 (1)	大淀町	3		1 (1)	4 (1)
宇陀市	1 (1)			1 (1)	上牧町	9 (5)			9 (5)
田原本町	3			3	王寺町	125 (70)		1	126 (70)
川西町	6 (5)			6 (5)	三宅町	1 (1)			1 (1)
大和高田市	7 (5)			7 (5)	県外		9 (5)	2 (1)	11 (6)
御所市	7 (4)			7 (4)	計	511 (312)	10 (5)	14 (6)	535 (323)

※ ( ) 内は、平成20年度新規調査協力者(再掲)

(2) 調査協力者の受診状況

受診医療機関は、奈良医療センターと健康づくりセンターで71.8%となっている(表1)。

調査協力者535人の男女別は、男性275人、女性260人で、受診者の年齢階層別では、60歳代が一番多く、ついで70歳代、50歳代となっており、50～70歳代が75.1%であった(表2-1)。

検査項目別では、胸部CTまで受けた人が68.6%であった(表2-2)。

表1 指定医療機関別受診者数

指定医療機関名	合計		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
県立奈良病院	13	2.6	6	2.5	7	2.7
奈良医療センター	134	27.7	68	27.6	66	27.7
健康づくりセンター	251	46.9	125	45.5	126	48.5
済生会中和病院	43	9.2	27	11.3	16	6.9
県立三室病院	56	10.5	29	10.5	27	10.4
その他	38	7.1	20	7.3	18	6.9
合計	535	100.0	275	100.0	260	100.0

表2-1 年齢階層別受診者数

年齢区分	合計		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
20～29歳	8 (6)	1.5	3 (1)	1.1	5 (5)	1.9
30～39歳	40 (27)	7.5	20 (13)	7.3	20 (14)	7.7
40～49歳	70 (45)	13.1	28 (22)	10.2	42 (23)	16.2
50～59歳	106 (69)	19.8	40 (26)	14.5	66 (43)	25.4
60～69歳	184 (111)	34.4	100 (65)	36.4	84 (46)	32.3
70～79歳	112 (57)	20.9	75 (38)	27.3	37 (19)	14.2
80～89歳	14 (7)	2.6	9 (5)	3.3	5 (2)	1.9
90～99歳	1 (1)	0.2	0	0.0	1 (1)	0.4
合計	535 (323)	100.0	275 (170)	100.0	260 (153)	100.0

※( )内は、平成20年度新規調査協力者(再掲)

表2-2 検査項目別受診者数

受診内容	合計	
	(人)	(%)
問診+胸部X線+胸部CT	367	68.6
問診+胸部X線のみ	111	20.7
問診+胸部CTのみ	19	3.6
問診のみ	38	7.1
合計	535	100.0

### (3) 調査協力者数の医学的所見・ばく露歴の整理

調査協力者のばく露歴や医学的所見について、整理・集計した(A表)。

平成19年度に受診し、経過観察となった者369人中、212人が平成20年度にも受診しており、平成20年度のX線所見は、不変95人、所見変化117人であった(A-1,2表)。

また、平成20年度の調査協力者521人の内、ばく露歴分類「ア.～エ.」の人は253人、「オ.その他」の人は268人であった(B、B-2表)。

「オ.その他」の者の内、平成元年以前に奈良県内に居住していた者268人をプロット対象者数とし、居住期間に応じて大きさを変えてプロットした(D表)。

#### <参考> ばく露歴分類

ア. 直接石綿を取り扱っていた職歴がある者

イ. 直接ではないが、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者

ウ. 家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者で作業具を家庭内に持ち帰ることなどによる石綿ばく露の可能性が考えられる者

エ. 職域以外で石綿取扱い施設や吹き付け石綿の事務室等に立ち入り経験がある者

オ. 上記ア～エ以外のばく露の可能性が特定できないもの(居住地や学校・職場等の周辺に石綿取扱い施設がある場合も含む)

## 4. まとめ

上記調査の結果、次のことが確認された。

- 今回の調査協力者 535 人中、平成2年以降に奈良県に居住していた者 14 人を除く 521 人のうち、医学的所見のある者が 158 人(30.3%)いた。有所見者における主な所見の構成割合は、胸膜プラークが 102 例(64.6%)と最も多く、肺野の腫瘤状陰影 56 例(35.4%)、肺野間質影 32 例(20.3%)、胸膜下曲線様陰影 10 例(6.3%)であった(C-1表)。
- 調査対象者 521 人中、石綿ばく露に関わる何らかの職業歴や家族職業歴等のある者は 253 人(48.6%)で、具体的なばく露歴が特定されない者が 268 人(51.4%)いた(B表)。
- 具体的なばく露歴の特定されない者 268 人(B表)において何らかの医学的所見のある有所見者数(有所見率)は 66 人(24.6%)であった。  
主な所見別に有所見率を見ると、肺野の腫瘤状陰影 32 例(11.9%)、胸膜プラークが 31 例(11.6%)、肺野間質影 13 例(4.9%)、胸膜下曲線様陰影 7 例(2.6%)であった(C-1表)。
- 平成元年以前の奈良県居住が特定できた者の内、具体的なばく露歴の特定されない者 268 人(B表)を、所見別にマークを変えて居住地に従って地図上にプロットした。対象者が転居している場合には、すべての居住地をプロットすることとした。居住地は全体で 447 か所となったが、そのうち住所の番地まで特定できなかった 68 か所を除く 379 か所について地図上にプロットした(D-1,2図)。

5. 石綿の健康リスク調査に参加し、医療の必要があると判断された者の診断経過について

平成 19 年度の石綿の健康リスク調査に参加し、医療の必要があると判断された者 1 人がその後、医療機関でどのような診断を受けているのか確認するため、本人から承諾を得て医療機関に照会を行うこととしたが、本人の承諾が得られなかったため計上していない。

平成19年度に健康リスク調査へ参加し、医療の必要があると判断された者のその後の診断経過

	計	うち女性	ア.主に直接職歴		イ.主に間接職歴		ウ.主に家庭内ばく露		エ.主に立入・屋内環境ばく露		オ.その他	
			うち女性	うち女性	うち女性	うち女性	うち女性	うち女性				
対象者	1	1									1	1
石綿関連疾患(疑いを含む)												
a 中皮腫												
b 肺がん												
c 石綿肺												
d 良性石綿胸水												
e びまん性胸膜肥厚												

※( )は、疾患疑いを再掲

※肺がんについては、石綿以外の原因によるものも含まれている。

## A表の注釈

注1:医学的所見については、胸部X線検査および胸部CT検査の結果を踏まえ、石綿ばく露に関連する可能性がある①～⑨及びその他の所見⑩(石綿ばく露に関連しない)を確認する。(重複含む)

総合所見欄は、複数年の医学的所見を踏まえて決定する

- ①胸水貯留が認められる者
- ②胸膜プラーグ(限局性の胸膜肥厚斑)が認められる者
- ③びまん性胸膜肥厚が認められる者
- ④胸膜腫瘍の疑いが認められる者
- ⑤胸膜下曲線様陰影が認められる者
- ⑥肺野の間質影が認められる者
- ⑦円形無気肺が認められる者
- ⑧肺野の腫瘤状陰影が認められる者
- ⑨リンパ節の腫大が認められる者
- ⑩その他の所見が認められる者

注2:ばく露歴については、該当するものにすべて●を記入(ア～オは重複可)

- ア. 直接石綿を取り扱っていた職歴がある者
  - イ. 直接ではないが、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者
  - ウ. 家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者で作業具を家庭内に持ち帰ることなどによる石綿ばく露の可能性が考えられる者
  - エ. 職域以外で石綿取扱い施設や吹き付け石綿の事務室等に立ち入り経験がある者
  - オ. 上記ア～エ以外のばく露の可能性が特定できないもの(居住地や学校・職場等の周辺に石綿取扱い施設がある場合も含む)
- (「具体的なばく露歴」の記入例)

例1 幼少期(S25-27頃)に石綿工場で遊んだ経験があり、父が石綿工場で勤務していた → ウとエ

例2 石綿工場近くの〇〇小学校にS30-35の6年間通学 → オ

例3 S28-40の間、設備の点検のため石綿工場に定期的に入出入りしていた。かつ、住居が石綿工場に近接(S26-50に〇〇1丁目)に居住)していた → イとオ

イとエの分類が紛らわしいものの例: 業務上で吹き付け石綿がある場所や石綿工場の敷地内に立入る場合は、原則「イ」とする。ただし、作業現場以外(事務室・当直室・食堂など)への立入に限っては「エ」とする。

注3:ばく露歴分類案については、各事案のばく露要因を1つに分類するもの。なお、複数のばく露歴がある者については、基本的には下記に従うものとする

- ア. 直接石綿を取り扱っていた職歴がある者
- イ. 上記アに該当せず、直接ではないが、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者
- ウ. 上記ア～イに該当せず、家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者や作業具を家庭内に持ち帰ることなどによる石綿ばく露の可能性が考えられる者
- エ. 上記ア～ウに該当せず、職域以外で石綿取扱い施設や吹き付け石綿の事務室等に立ち入り経験がある者
- オ. 上記ア～エに該当しないもの

上記以外による分類が適当であると考えられる場合や判断が困難な場合には、症例番号と具体的な内容を記入し、具体的な分類については環境省と相談することとする。

注4:経過観察・終了の欄については、調査終了の場合に「終」とその理由を記入する

注5:備考欄については、特記事項を記入する

(例1:X線・CT以外の検査を実施した場合の検査項目の記入、例2:石綿救済制度や労災制度の認定や申請中である旨の記入 等)



ばく露と医学的所見に係わる集計表(奈良県)

A-1表: 2008年度受診者①②(521名)

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
1	男	1940代	⑩	不変	—	⑩	●					ア	右上葉癒痕	
2	男	1930代	⑩	軽減	—	なし	●					ア		
3	男	1980代	⑩	軽減	—	なし	●					ア		
4	男	1940代	⑩	不変	—	⑩	●					ア	右肋横角鈍化	
5	女	1930代	⑩	軽減	—	なし	●					ア		
6	男	1920代	②	新所見	○	②⑩	●					ア	肝のう胞	
7	女	1920代	②⑥⑩	軽減	○	②	●					ア		
8	男	1940代	⑧	不変	○	⑧	●					ア		
9	男	1940代	⑩	軽減	—	なし	●					ア		
10	男	1930代	⑩	不変	—	⑩	●					ア	右上肺癒痕	
11	男	1940代	②⑩	軽減	○	②	●					ア		
12	男	1930代	②⑩	不変	○	②⑩	●					ア	左右のう胞、左甲状腺腫瘍	
13	男	1950代	⑩	軽減	—	なし	●					ア		
14	男	1920代	②⑩	軽減	○	②⑩	●					ア	左下葉のう胞、右癒痕陰影	
15	男	1940代	②	新所見	○	②⑧	●					ア		
16	男	1930代	⑩	不変	○	⑩	●					ア	左下葉S6無気肺	
17	男	1920代	②⑩	不変	○	②⑩	●					ア	肺野低吸収域・気腫性変化、肺気腫、葉間胸膜肥厚	
18	男	1930代	②⑧	新所見	○	②⑧⑩	●					ア	胸膜石灰化(非ブランク)	
19	男	1940代	⑩	不変	—	⑩	●					ア	両側上肺炎症性癒痕	
20	女	1930代	⑩	不変	—	⑩	●					ア	右上・中肺野癒痕性変化	
21	男	1940代	⑩	不変	—	⑩	●					ア	心拡大	
22	男	1930代	②⑤⑥⑩	軽減	—	②	●					ア		
23	男	1940代	②⑩	軽減	—	なし	●					ア		
24	男	1970代	なし	不変	○	なし	●					ア		
25	男	1930代	②③⑦	新所見	○	②③⑦⑨⑩	●					ア	右肋横角消失・鈍、両肺野低吸収域・気腫性変化	
26	男	1930代			○	②⑤⑥⑨⑩	●					ア	右肺尖部胸膜肥厚	
27	男	1920代			○	⑩	●					ア	陳旧性肺結核、肺気腫、肺野低吸収域・気腫性変化	
28	男	1920代			○	②	●					ア		
29	男	1940代			○	⑩	●					ア	左肺炎症性癒痕	
30	男	1940代			○	なし	●					ア		
31	男	1940代			○	なし	●					ア		
32	男	1940代			○	⑩	●					ア	肝のう胞、両肺尖炎症性癒痕	
33	男	1940代			○	②⑥⑩	●					ア	胆石、右下肺癒痕陰影	
34	男	1940代			○	なし	●					ア		
35	男	1930代			○	⑩	●					ア	両側肺尖部癒痕	
36	男	1940代			○	⑩	●	●				ア	肺気腫、気管支壁肥厚	
37	男	1930代			○	⑩	●	●				ア	胆石疑い	
38	男	1930代	②⑤⑩	軽減	—	②	●	●			●	ア		
39	男	1930代			○	なし	●	●			●	ア		
40	女	1940代			○	⑩	●	●			●	ア	両肺尖・右中葉炎症性癒痕	
41	女	1950代			○	⑩	●	●			●	ア	心拡大・脂肪肝疑い、左第5、6骨折痕疑い	
42	男	1940代			○	②⑧	●	●			●	ア		
43	女	1930代	⑩	不変	—	⑩	●		●			ア	右中葉炎症性癒痕	
44	男	1940代			○	②⑩	●		●			ア	右肺炎症性癒痕(胸膜肥厚あり)	
45	男	1960代			○	なし	●		●			ア		
46	男	1930代			○	②③⑧⑩	●		●			ア	両肋横角消失・鈍、右下葉円形性無気肺疑い、左下葉石灰化を伴う結節影、両下葉結節影、左右のう胞、胆石	

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
47	女	1970代			○	なし	●		●			ア		
48	男	1970代			○	⑩	●		●			ア	右S6癒痕、高度脂肪肝	
49	男	1930代	⑨⑩	軽減	—	⑩	●		●		●	ア	心拡大、 肺動脈拡張	
50	女	1950代	⑧	不変	○	⑧	●		●		●	ア		
51	男	1930代			○	⑩	●		●		●	ア	右中葉・右肺尖癒痕陰影	
52	男	1940代			○	なし	●		●		●	ア		
53	女	1950代			○	⑩	●		●		●	ア	右下肺石灰化、心 拡大、右上肺癒痕 陰影、縦隔リンパ節 石灰化	
54	女	1920代			○	②⑩	●		●		●	ア	右中葉S4気管支拡張を伴う炎症性癒痕	
55	男	1930代	なし	不変	—	なし	●			●		ア		
56	男	1940代	なし	不変	—	なし	●			●		ア		
57	男	1930代	②⑩	不変	○	②⑩	●			●		ア	胆石	
58	男	1940代	⑩	不変	—	⑩	●			●		ア	肺気腫・右上葉癒痕	
59	男	1940代			○	⑨⑩	●			●		ア	脾腫、左下葉癒痕陰影	
60	男	1940代			○	②⑩	●			●	●	ア	左下葉・右中葉癒痕	
61	女	1940代			○	②	●	●	●		●	ア		
62	男	1950代	⑧	不変	○	⑧	●				●	ア		
63	女	1960代	なし	不変	—	なし	●				●	ア		
64	男	1960代	なし	不変	—	なし	●				●	ア		
65	男	1940代	⑧	軽減	○	なし	●				●	ア		
66	男	1930代	なし	不変	—	なし	●				●	ア		
67	女	1950代	なし	不変	—	なし	●				●	ア		
68	男	1930代	②⑥⑨⑩	軽減	○	②⑥	●				●	ア		
69	男	1930代	⑩	軽減	—	なし	●				●	ア		
70	男	1940代	⑩	軽減	—	なし	●				●	ア		
71	男	1940代	なし	不変	—	なし	●				●	ア		
72	女	1940代	⑨⑩	軽減	—	⑩	●				●	ア	左下葉癒痕、両肺尖癒痕	
73	女	1960代	なし	不変	—	なし	●				●	ア		
74	男	1940代	②⑩	不変	○	②⑩	●				●	ア	両肺尖部癒痕、右 中葉・左下葉・上葉 舌区癒痕	
75	男	1940代	⑩	軽減	—	なし	●				●	ア		
76	男	1930代	②⑩	新所見	○	⑥⑩	●				●	ア	中葉・舌区癒痕、左 下肺索状影	
77	男	1940代	⑩	軽減	—	なし	●				●	ア		
78	男	1930代	⑩	不変	○	⑩	●				●	ア	左右下肺炎症性癒痕	
79	男	1950代			○	⑩	●				●	ア	右中葉・左舌区炎症性癒痕	
80	男	1930代			○	⑩	●				●	ア	両肺尖癒痕陰影	
81	男	1940代			○	⑩	●				●	ア	軽度脾腫	
82	男	1960代			○	なし	●				●	ア		
83	男	1970代			○	なし	●				●	ア		
84	男	1960代			○	⑩	●				●	ア	両上肺炎症性癒痕 左肋横角消失・鈍、 右肺嚢胞、癒痕性 変化	
85	男	1930代			○	⑩	●				●	ア	リンパ節石灰化	
86	男	1930代			○	②⑩	●				●	ア	右中葉・左下葉粒 状影、胆石、脂肪 肝、左右肺底部癒痕	
87	男	1940代			○	⑩	●				●	ア	小癒痕性変化(散 在性)	
88	男	1930代			○	⑩	●				●	ア	両肺尖部癒痕	
89	男	1940代			○	②⑥	●				●	ア		
90	男	1940代			○	⑩	●				●	ア	両肺炎症性変化	
91	女	1950代			○	⑩	●				●	ア		
92	男	1950代			○	⑧	●				●	ア		
93	男	1950代			○	なし	●				●	ア		
94	男	1940代			○	②⑩	●				●	ア	右中葉・左上葉炎症性変化	
95	男	1940代			○	⑩	●				●	ア	左上葉・右中葉小結節	

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
96	男	1940代			○	②⑥	●				●	ア		
97	女	1930代			○	②⑧	●				●	ア		
98	男	1930代			○	②⑩	●				●	ア	左舌区炎症性変化、両側腎のう胞	
99	男	1930代			○	⑩	●				●	ア	肺野低吸収域・気腫性変化、左右嚢胞、肝のう胞	
100	女	1930代			○	⑩	●				●	ア	左右肺野低吸収域・気腫性変化、炎症性癒痕、炎症による胸膜肥厚	
101	男	1940代			○	②	●				●	ア		
102	男	1950代			○	なし	●				●	ア		
103	男	1970代			○	なし	●				●	ア		
104	男	1930代			○	②⑥⑩	●				●	ア	心陰影拡大、右のう胞	
105	女	1940代	⑩	不変	—	⑩		●				イ	両肺尖部炎症性癒痕	
106	男	1940代	②⑩	新所見	○	②⑤⑥⑩		●				イ	左右肺野低吸収域・気腫性変化、右嚢胞、左下葉板状無気肺	
107	男	1940代	⑩	軽減	—	なし		●				イ		
108	男	1940代	⑧⑩	軽減	○	⑧		●				イ		
109	男	1950代	なし	不変	—	なし		●				イ		
110	男	1950代	②⑧	不変	○	②⑧		●				イ		
111	女	1940代	⑩	不変	○	⑩		●				イ	右中葉炎症性変化(軽度増強)、両肺尖部癒痕性変化、両側肺尖胸膜肥厚+癒痕	
112	男	1930代			○	なし		●				イ		
113	男	1940代			○	なし		●				イ		
114	男	1970代			○	⑩		●				イ	炎症性癒痕(右の上肺など)、左右のう胞	
115	男	1920代			○	⑧⑩		●		●		イ	右肺尖プラ、左右肺野低吸収域・気腫性変化、右嚢胞、肺気腫	
116	女	1940代	⑩	軽減	—	なし		●	●	●		イ		
117	女	1960代	なし	不変	—	なし		●	●	●		イ		
118	女	1940代	②⑧	軽減	○	②		●	●		●	イ		
119	女	1940代	②⑩	不変	○	②⑩		●	●		●	イ	心拡大	
120	男	1940代	②⑩	新所見	○	②⑧⑩		●	●		●	イ	左肋横角消失・鈍	
121	男	1960代			○	なし		●	●		●	イ		
122	男	1950代			○	なし		●	●		●	イ		
123	男	1930代			○	なし		●	●		●	イ		
124	男	1940代			○	⑩		●	●		●	イ	脂肪肝・胆石	
125	女	1960代			○	なし		●	●		●	イ		
126	男	1930代			○	②⑤⑥⑩		●		●	●	イ	両肺野低吸収域・気腫性変化、両肺嚢胞	
127	男	1930代			○	⑧⑩		●		●	●	イ	両肺尖陳旧性炎症	
128	男	1930代	⑤⑩	軽減	○	⑩		●	●	●	●	イ	左上下葉癒痕	
129	女	1930代	⑩	不変	—	⑩		●	●	●	●	イ	右肋横角消失・鈍、右中葉炎症性変化	
130	男	1930代	⑩	軽減	—	なし		●			●	イ		
131	男	1930代	②③	新所見	○	②⑩		●			●	イ	軽度気腫性変化	
132	男	1930代	⑥⑩	不変	○	⑥⑩		●			●	イ	肺気腫、左上葉小結節影	
133	男	1930代	②⑩	不変	○	②⑩		●			●	イ	術後変化(僧帽弁手術)・左葉間小結節	
134	女	1940代	なし	不変	—	なし		●			●	イ		
135	男	1940代	②⑩	新所見	○	②⑧⑩		●			●	イ	左下肺小結節、右中葉・左舌区癒痕	
136	男	1940代			○	⑩		●			●	イ	両側肺癒痕性変化、肝石灰化・肝嚢胞	
137	男	1930代			○	⑤⑩		●			●	イ	左肺内石灰化像、左肺嚢胞、右肺尖部・左上葉癒痕	
138	男	1930代			○	⑩		●			●	イ	両肺尖癒痕	
139	男	1930代			○	⑧⑩		●			●	イ	右下葉癒痕性病変、右下葉背側癒痕性変化	
140	男	1950代			○	⑩		●			●	イ	右嚢胞、右肺尖炎症性癒痕	

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
141	男	1920代			○	②⑥		●			●	イ		終(治療中)
142	男	1940代			○	なし		●			●	イ		
143	男	1950代			○	⑩		●			●	イ	右肺胸膜石灰化 (非ブランク)	
144	女	1950代			○	⑩		●			●	イ	左甲状腺結節影	
145	女	1950代			○	②⑩		●			●	イ	右肺尖癒痕疑い、 右上葉・左肺尖・右 葉癒痕性変化	
146	女	1940代	⑩	軽減	—	なし		●				ウ		
147	女	1940代	⑩	不変	—	⑩		●				ウ	右上葉癒痕	
148	女	1940代	⑧⑩	軽減	○	⑩		●				ウ	左肺底部炎症性癒 痕	
149	男	1940代	⑩	不変	○	⑩		●				ウ	右肺底部嚢胞、右 肺尖・右上葉・中葉 肺底部癒痕	
150	女	1940代	⑩	軽減	—	なし		●				ウ		
151	女	1940代	⑩	軽減	—	なし		●				ウ		
152	女	1940代	②③⑩	軽減	—	②		●				ウ		
153	女	1940代			○	⑩		●				ウ	右中葉・左下葉炎 症性癒痕、左肋横 角鈍化	
154	女	1940代			○	⑩		●				ウ	脂肪肝	
155	女	1940代	⑧⑩	不変	○	⑧⑩		●	●			ウ	両側性癒痕性変化	
156	女	1920代	②⑩	新所見	○	②③⑩		●	●			ウ	心拡大	
157	女	1930代	②⑧	新所見	○	②⑩		●	●			ウ	右上葉癒痕性変化	
158	男	1960代	⑩	不変	—	⑩		●	●	●		ウ	気胸術後、左のう胞	
159	男	1940代	②	不変	○	②		●	●	●		ウ		
160	女	1940代	⑩	軽減	—	なし		●	●	●		ウ		
161	女	1940代	⑩	軽減	—	なし		●	●	●		ウ		
162	女	1930代	②	不変	○	②		●	●	●		ウ		
163	女	1930代	②⑩	軽減	—	②		●	●	●		ウ		
164	女	1970代	なし	不変	—	なし		●	●	●		ウ		
165	男	1970代	なし	不変	—	なし		●	●	●		ウ		
166	女	1940代			○	⑩		●	●	●		ウ	左下肺索状影、左 舌区癒痕	
167	男	1930代			○	⑧		●	●	●		ウ		
168	男	1940代			○	②		●	●	●		ウ		
169	女	1950代			○	⑩		●	●	●		ウ	両側肺尖部癒痕、 右乳房腫瘍	
170	女	1950代			○	②		●	●	●		ウ		
171	女	1960代	なし	不変	—	なし		●	●	●		ウ		
172	男	1930代	⑨⑩	軽減	—	なし		●	●	●		ウ		
173	女	1920代	②⑩	不変	○	②⑩		●	●	●		ウ	右中葉炎症性癒痕	
174	女	1930代	⑥⑩	軽減	○	⑥		●	●	●		ウ		
175	女	1930代	②⑩	軽減	○	②		●	●	●		ウ		
176	女	1950代	②	不変	○	②		●	●	●		ウ		
177	男	1920代	②⑤⑥⑨ ⑩	軽減	○	②⑥		●	●	●		ウ		
178	男	1930代	②⑧	軽減	○	②		●	●	●		ウ		
179	女	1950代	⑩	不変	○	⑩		●	●	●		ウ	左舌区小結節影	
180	女	1960代	⑩	不変	—	⑩		●	●	●		ウ	両側肺尖部癒痕、 上葉収縮	
181	男	1930代	⑩	不変	—	⑩		●	●	●		ウ	冠動脈バイパス 術後	
182	女	1940代	⑩	不変	—	⑩		●	●	●		ウ	右下肺野癒痕	
183	女	1940代	⑧	新所見	○	⑧⑩		●	●	●		ウ	左下肺・右下葉癒 痕性変化、右上葉 小結節影、左下葉・ 右中葉癒痕	
184	男	1970代	なし	不変	—	なし		●	●	●		ウ		
185	女	1950代	⑥⑩	軽減	—	⑩		●	●	●		ウ	両上葉のう胞、右上 葉癒痕	
186	女	1950代	なし	不変	—	なし		●	●	●		ウ		
187	女	1940代	⑩	軽減	—	なし		●	●	●		ウ		
188	女	1950代	⑥	新所見	○	⑧⑩		●	●	●		ウ	肺尖部癒痕	
189	女	1970代	⑩	不変	—	⑩		●	●	●		ウ	心拡大	
190	女	1940代			○	⑩		●	●	●		ウ	右下肺炎症性癒痕	
191	女	1950代			○	⑩		●	●	●		ウ	両肺底部炎症性癒 痕	
192	女	1960代			○	なし		●	●	●		ウ		
193	男	1940代			○	なし		●	●	●		ウ		
194	女	1960代			○	なし		●	●	●		ウ		
195	男	1970代			○	なし		●	●	●		ウ		

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
196	女	1960代			○	なし			●		●	ウ		
197	女	1930代			○	⑩			●		●	ウ	両肺尖癒痕性変化	
198	女	1950代			○	②⑩			●		●	ウ	右肺尖・右下葉癒痕性変化、肝左葉肝嚢胞	
199	女	1930代			○	②⑥⑩			●		●	ウ	心拡大	
200	女	1960代			○	なし			●		●	ウ		
201	女	1940代			○	⑧⑩			●		●	ウ	両側癒痕性変化、心拡大、左甲状腺腫瘍疑い	
202	女	1960代			○	⑩			●		●	ウ	左肺底部癒痕	
203	女	1950代			○	⑩			●		●	ウ	左上葉癒痕	
204	女	1930代			○	⑩			●		●	ウ	右肺S10点状石灰化	
205	女	1950代			○	なし			●		●	ウ		
206	女	1950代			○	②			●		●	ウ		
207	女	1940代			○	⑩			●		●	ウ	両肺尖部癒痕	
208	女	1960代			○	⑩			●		●	ウ	後縦(小帯石灰化)胸椎2-7	
209	女	1950代			○	②			●		●	ウ		
210	男	1940代			○	②⑩			●		●	ウ	両肺尖癒痕陰影	
211	男	1960代			○	⑩			●		●	ウ	右肺底部小結節(石灰化あり)炎症性変化	
212	女	1920代			○	⑩			●		●	ウ	両側上葉陳旧性炎症性変化	
213	男	1950代			○	②			●		●	ウ		
214	女	1940代			○	⑩			●		●	ウ	胆石	
215	男	1950代			○	なし			●		●	ウ		
216	女	1940代			○	⑩			●		●	ウ	両側上肺炎性癒痕、肝のう胞	
217	女	1940代			○	⑩			●		●	ウ	前縦隔軟部組織陰影、胆石	
218	女	1930代			○	②⑩			●		●	ウ	両肺尖部癒痕、左肺底部・右中葉癒痕、右甲状腺小のう胞疑い	
219	男	1950代			○	②			●		●	ウ		
220	女	1980代			○	なし			●		●	ウ		
221	女	1930代			○	②⑩			●		●	ウ	肝のう胞	
222	女	1950代			○	⑩			●		●	ウ	右S3~中葉にかけて癒痕性変化	
223	女	1940代			○	②⑥			●		●	ウ		
224	男	1970代	なし	不変	—	なし			●		●	エ		
225	男	1930代	②	不変	○	②			●		●	エ		
226	男	1930代	⑩	軽減	—	なし			●		●	エ		
227	男	1930代			○	⑩			●		●	エ	両肺尖部癒痕陰影、気腫変化	
228	男	1930代	⑩	不変	—	⑩			●		●	エ	右肺炎性癒痕	
229	女	1940代	⑩	新所見	○	⑥			●		●	エ		
230	男	1930代	⑨⑩	軽減	○	⑩			●		●	エ	左下肺斑状浸潤影(炎症性変化)	
231	女	1930代	⑩	不変	—	⑩			●		●	エ	右肺尖・右中葉癒痕陰影	
232	男	1940代	②⑩	不変	○	②⑩			●		●	エ	右肋横角消失・右下葉癒痕	
233	女	1920代	⑩	不変	—	⑩			●		●	エ	食道裂孔ヘルニア	
234	女	1960代	⑩	不変	—	⑩			●		●	エ	両肺尖陳旧性炎症性変化	
235	男	1940代	⑩	軽減	—	なし			●		●	エ		
236	男	1930代			○	なし			●		●	エ		
237	男	1930代			○	なし			●		●	エ		
238	男	1960代			○	なし			●		●	エ		
239	女	1970代			○	なし			●		●	エ		
240	男	1930代			○	②⑥⑩			●		●	エ	左下葉細気管支炎疑い	
241	男	1970代			○	なし			●		●	エ		
242	男	1940代			○	なし			●		●	エ		
243	男	1940代			○	②⑩			●		●	エ	右中葉石灰化を伴う小結節	
244	男	1930代			○	⑩			●		●	エ	両肺尖部癒痕、右下葉の炎症性変化、肝石灰化	
245	女	1940代			○	⑩			●		●	エ	左肺尖石灰化	
246	女	1930代			○	⑩			●		●	エ	胆石	
247	男	1940代			○	②⑥			●		●	エ		
248	女	1960代			○	⑩			●		●	エ	右S4小結節陰影	

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
249	男	1940代			○	⑧⑩				●	●	エ	不整形陰影	
250	男	1940代			○	②⑩				●	●	エ	左右肺野低吸収域・気腫性変化、両上肺炎症性癒痕	
251	女	1960代			○	⑩				●	●	エ	脂肪肝	
252	男	1930代			○	⑧⑩				●	●	エ	両上肺石灰化	
253	男	1940代			○	⑩				●	●	エ	両小のう胞	
254	女	1970代	なし	不変	—	なし					●	オ		
255	女	1940代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
256	女	1940代	⑧	不変	○	⑧					●	オ		
257	女	1940代	⑤⑥⑩	軽減	○	⑤⑥					●	オ		
258	男	1940代	⑤⑥⑩	不変	○	⑤⑥⑩					●	オ	左右肺野低吸収域・気腫性変化、左右嚢胞	
259	男	1940代	②	新所見	○	②⑧					●	オ		
260	女	1950代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	両肺尖部癒痕	
261	男	1970代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
262	男	1960代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	右側大動脈弓	
263	女	1930代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
264	女	1970代	⑧	軽減	○	なし					●	オ		
265	女	1930代	⑧	軽減	○	なし					●	オ		
266	女	1930代	なし	不変	—	なし					●	オ		
267	男	1970代	なし	不変	—	なし					●	オ		
268	女	1940代	②	新所見	○	②⑩					●	オ	舌区癒痕、大動脈石灰化	
269	男	1930代	②	不変	○	②					●	オ		
270	女	1940代	②⑧⑩	軽減	○	②⑧					●	オ		
271	男	1940代	②⑩	軽減	○	②					●	オ		
272	男	1920代	②⑩	新所見	○	⑤⑥⑧⑩					●	オ	肺気腫、両側肺尖癒痕、のう胞	
273	男	1930代	②⑤⑥⑩	軽減	○	②⑤⑥					●	オ		
274	男	1930代	②⑩	軽減	○	②					●	オ		
275	女	1940代	②⑧⑩	軽減	○	②⑧					●	オ		
276	女	1960代	⑥	軽減	○	なし					●	オ		
277	男	1920代	②⑤⑥⑩	軽減	○	②⑩					●	オ	左下肺癒痕陰影	
278	男	1950代	⑤⑥⑧⑩	軽減	○	⑩					●	オ	両肺野低吸収域・気腫性変化	
279	女	1930代	⑩	新所見	—	⑥⑩					●	オ	右気管支拡張	
280	女	1940代	⑧⑩	不変	○	⑧⑩					●	オ	胆石	
281	男	1960代	⑤⑥⑩	軽減	○	⑤					●	オ		
282	女	1950代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	両肺炎症性癒痕	
283	男	1940代	⑥⑩	軽減	○	⑩					●	オ	両側背側胸膜肥厚	
284	女	1940代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
285	女	1960代	⑧	不変	○	⑧					●	オ		
286	男	1970代	なし	不変	—	なし					●	オ		
287	女	1960代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
288	男	1950代	②⑧	新所見	○	②⑩					●	オ	右上肺小結節	
289	女	1950代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	右肋横角鈍化	
290	女	1950代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
291	女	1960代	⑩	軽減	○	なし					●	オ		
292	男	1930代	②	不変	○	②					●	オ		
293	女	1960代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
294	男	1950代	なし	不変	—	なし					●	オ		
295	女	1950代	なし	不変	—	なし					●	オ		
296	女	1930代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
297	男	1930代	⑧⑩	不変	○	⑧⑩					●	オ	肺気腫、多発のう胞	
298	男	1960代	⑥⑩	軽減	○	なし					●	オ	線維化改善	
299	女	1940代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	両肺炎症性変化	
300	女	1930代	⑩	新所見	○	⑥⑩					●	オ	心肥大、左腎のう胞	
301	女	1940代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
302	女	1950代	②⑩	軽減	○	②					●	オ		
303	男	1930代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
304	女	1950代	⑥	軽減	○	なし					●	オ		
305	女	1940代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	右中葉炎症性変化	
306	女	1960代	⑧⑩	軽減	○	⑧					●	オ		
307	男	1930代	②	新所見	○	②⑧⑩					●	オ	右肺底部小結節影	
308	女	1940代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
309	女	1950代	なし	不変	—	なし					●	オ		
310	男	1930代	⑩	不変	○	⑩					●	オ	右S5炎症性変化・気管支拡張	

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
311	女	1940代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	右肺尖部炎症性瘢痕	
312	女	1950代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
313	女	1950代	⑨⑩	軽減	—	⑩					●	オ	縦隔リンパ節石灰化	
314	男	1950代	②	不変	○	②					●	オ		
315	女	1960代	⑤⑩	軽減	○	⑩					●	オ	右上葉・左下葉小結節陰影	
316	男	1930代	②	新所見	○	②⑤⑥⑩					●	オ	右のう胞	
317	女	1930代	なし	新所見	○	⑩					●	オ	右上葉・左下葉炎症性変化	
318	女	1940代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
319	女	1930代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
320	女	1930代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
321	男	1940代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
322	男	1950代	②③⑩	不変	○	②③⑩					●	オ	胸膜石灰化(非ブランク)、左肋骨折後変化、肝右葉腫瘍陰影	
323	女	1950代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
324	女	1950代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
325	女	1940代	⑨⑩	軽減	—	⑩					●	オ	右縦隔リンパ節石灰化	
326	女	1960代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
327	女	1960代	なし	不変	—	なし					●	オ		
328	女	1940代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	両側肺尖部瘢痕性変化	
329	女	1940代	②⑩	不変	○	②⑩					●	オ	右上葉炎症性変化	
330	男	1950代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
331	女	1940代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	炎症性変化	
332	女	1970代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
333	女	1930代	⑩	不変	○	⑩					●	オ	両肺尖胸膜肥厚、右上葉収縮、両側肺尖部・左肺底部・左舌区瘢痕、右S6小結節	
334	女	1950代	②⑩	軽減	—	②					●	オ		
335	男	1950代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	左肺尖部瘢痕	
336	女	1940代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	両側肺尖部に瘢痕性変化	
337	男	1940代	②⑩	軽減	—	なし					●	オ		
338	女	1970代	なし	不変	—	なし					●	オ		
339	女	1930代	⑩	不変	—	⑩					●	オ	両肺尖部胸膜肥厚	
340	男	1940代			○	⑩					●	オ	心拡大	
341	女	1950代			○	なし					●	オ		
342	男	1930代			○	なし					●	オ		
343	女	1940代			○	⑩					●	オ	左舌区・右中葉炎症性瘢痕陰影、右リンパ節の石灰化	
344	女	1950代			○	なし					●	オ		
345	女	1920代			○	⑩					●	オ	左肋横角消失、両下肺炎症性瘢痕	
346	女	1940代			○	なし					●	オ		
347	女	1980代			○	なし					●	オ		
348	女	1940代			○	⑩					●	オ	右上葉・右S6陳旧性炎症性瘢痕(空洞を伴う)	
349	男	1930代			○	なし					●	オ		
350	男	1960代			○	なし					●	オ		
351	男	1930代			○	⑩					●	オ	両下葉気管支拡張、右中葉無気肺、気管支拡張	
352	男	1940代			○	⑩					●	オ	心拡大	
353	女	1940代			○	⑩					●	オ	心拡大、肝硬変	
354	女	1940代			○	②⑩					●	オ	右甲状腺腫、右中葉・左舌区炎症性瘢痕	
355	男	1930代			○	なし					●	オ		
356	女	1940代			○	なし					●	オ		
357	女	1930代			○	⑩					●	オ	右腎のう胞疑い	
358	男	1960代			○	なし					●	オ		
359	女	1930代			○	⑩					●	オ	両肺尖部胸膜肥厚、両肺尖部瘢痕	
360	女	1970代			○	なし					●	オ		
361	男	1940代			○	なし					●	オ		

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
362	女	1940代			○	⑧⑩					●	オ	右中葉炎症性変化	
363	女	1960代			○	⑩					●	オ	心拡大・脂肪肝・胆石	
364	男	1950代			○	②					●	オ		
365	女	1950代			○	⑩					●	オ	胸膜肥厚、肝のう胞	
366	女	1940代			○	⑩					●	オ	右中葉肺内石灰化像、右肺門リンパ節石灰化、右中葉・左舌区癒痕性変化	
367	男	1930代			○	⑧⑩					●	オ	肺内石灰化像、左肺尖左舌区癒痕、胸椎椎体に異常影	
368	女	1940代			○	⑧⑩					●	オ	胆石	
369	女	1940代			○	⑩					●	オ	脂肪肝、肝のう胞	
370	男	1930代			○	⑩					●	オ	縦隔リンパ節腫大数個	
371	男	1940代			○	⑩					●	オ	縦隔リンパ節石灰化	
372	女	1960代			○	⑩					●	オ	左S8炎症性癒痕	
373	男	1950代			○	⑧					●	オ		
374	女	1940代			○	⑤⑩					●	オ		終(治療中)
375	女	1930代			○	⑧⑩					●	オ	前縦隔腫瘍	
376	女	1950代			○	⑧					●	オ		
377	女	1960代			○	⑧					●	オ		
378	男	1920代			○	②⑩					●	オ	左上肺炎炎症性癒痕	
379	女	1940代			○	⑩					●	オ	中葉・舌区気管支拡張症	
380	女	1960代			○	なし					●	オ		
381	女	1950代			○	なし					●	オ		
382	女	1940代			○	⑩					●	オ	左舌区・左肺底部癒痕	
383	女	1970代			○	⑩					●	オ	左肺底部癒痕	
384	女	1960代			○	なし					●	オ		
385	女	1940代			○	⑩					●	オ	右横隔膜石灰化	
386	女	1970代			○	なし					●	オ		
387	女	1950代			○	⑩					●	オ	胆のう結石	
388	男	1940代			○	②⑩					●	オ	脂肪肝	
389	女	1960代			○	なし					●	オ		
390	男	1960代			○	なし					●	オ		
391	女	1940代			○	⑩					●	オ	右中葉・左肺底部癒痕	
392	女	1940代			○	⑩					●	オ	肝のう胞、右肺門石灰化	
393	男	1940代			○	⑩					●	オ	肝のう胞、脂肪肝	
394	女	1970代			○	なし					●	オ		
395	男	1940代			○	なし					●	オ		
396	女	1940代			○	なし					●	オ		
397	女	1970代			○	なし					●	オ		
398	男	1950代			○	⑩					●	オ	両肺炎炎症性癒痕	
399	女	1950代			○	⑩					●	オ	肝のう胞	
400	男	1960代			○	なし					●	オ		
401	男	1950代			○	⑩					●	オ	縦隔リンパ節石灰化	
402	女	1950代			○	⑩					●	オ	脂肪肝	
403	男	1940代			○	⑩					●	オ	両肺炎炎症性癒痕	
404	女	1930代			○	なし					●	オ		
405	男	1940代			○	⑩					●	オ	右下葉背側に限局性胸膜肥厚	
406	男	1930代			○	⑩					●	オ	右肺炎炎症性癒痕、右S2上葉陳旧性癒痕、左下葉S8のう胞	
407	男	1930代			○	⑩					●	オ	両上肺癒痕	
408	男	1940代			○	⑩					●	オ	両肺炎癒痕、右肺尖のう胞	
409	男	1920代			○	⑩					●	オ	右上葉炎症性癒痕	
410	女	1940代			○	⑧⑩					●	オ	右上葉・中葉炎症性変化	
411	女	1930代			○	⑩					●	オ	両肺炎炎症性癒痕	
412	男	1940代			○	②⑤					●	オ		
413	男	1950代			○	⑧⑩					●	オ	左右のう胞、心拡大	
414	女	1930代			○	⑩					●	オ	両側上肺炎炎症性癒痕、食道裂孔ヘルニア	



No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
415	女	1950代			○	⑧					●	オ		
416	男	1950代			○	②					●	オ		
417	男	1960代			○	⑩					●	オ	胆石疑い	
418	男	1950代			○	⑩					●	オ	左右嚢胞、胆石	
419	女	1950代			○	⑩					●	オ	左乳腺石灰化小結 節、肝のう胞	
420	女	1940代			○	⑩					●	オ	右乳腺石灰化、右 胸膜を巻きこむ炎症 性腫瘍	
421	男	1930代			○	②⑩					●	オ	左下葉・右上葉(S 2)癒痕性変化	
422	男	1940代			○	⑩					●	オ	両側背部胸膜肥厚	
423	女	1940代			○	⑩					●	オ	両側肺尖癒痕性変 化	
424	男	1960代			○	なし					●	オ		
425	男	1930代			○	⑥					●	オ		
426	男	1930代			○	⑧⑩					●	オ	右下肺浸潤影、右 中葉縮少と中根部 気管支拡張、胆石	
427	男	1930代			○	なし					●	オ		
428	男	1970代			○	⑩					●	オ	左右嚢胞	
429	男	1960代			○	なし					●	オ		
430	男	1970代			○	なし					●	オ		
431	女	1960代			○	なし					●	オ		
432	男	1950代			○	⑩					●	オ	両肺尖癒痕	
433	女	1980代			○	⑩					●	オ	軽度胸膜腫大	
434	女	1950代			○	なし					●	オ		
435	女	1930代			○	⑩					●	オ	左舌区炎症性癒痕 (S2)	
436	女	1960代			○	⑩					●	オ	肝のう胞	
437	男	1970代			○	なし					●	オ		
438	男	1950代			○	⑩					●	オ	右上葉(S2)炎症性 癒痕、肝のう胞	
439	女	1950代			○	なし					●	オ		
440	男	1960代			○	なし					●	オ		
441	女	1940代			○	なし					●	オ		
442	女	1940代			○	⑩					●	オ	肝内石灰化	
443	女	1960代			○	⑩					●	オ	まだら脂肪肝	
444	女	1930代			○	⑩					●	オ	肝内石灰化	
445	男	1940代			○	②⑧					●	オ		
446	女	1950代			○	⑩					●	オ	肝のう胞・脾腫	
447	女	1950代			○	⑩					●	オ	右S4陳旧性炎症性 変化	
448	女	1950代			○	⑩					●	オ	右副腎石灰化・肝 のう胞・左舌区気管 支拡張症	
449	男	1940代			○	⑩					●	オ	両肺野低吸収域・ 気腫性変化、両肺 尖炎症性癒痕、右 腎のう胞・脂肪肝	
450	女	1950代			○	⑩					●	オ	右肺尖のう胞、小結 節陰影・右肺2カ所	
451	女	1930代			○	⑩					●	オ	左上葉炎症性癒痕	
452	女	1940代			○	⑩					●	オ	胸膜肥厚疑、心膜 肥厚、心のう液	
453	男	1950代			○	なし					●	オ		
454	女	1940代			○	⑩					●	オ	左甲状腺腫大、右 肺小結節陰影	
455	男	1970代			○	⑩					●	オ	肝腫瘍疑い	
456	女	1950代			○	⑩					●	オ	右乳腺結節	
457	女	1940代			○	⑩					●	オ	右乳腺石灰化、 胆石	
458	男	1930代			○	⑥⑧⑩					●	オ		終(治療中)
459	男	1930代			○	⑧					●	オ		
460	女	1950代			○	なし					●	オ		
461	男	1940代			○	⑩					●	オ	胆石	
462	男	1960代			○	なし					●	オ		
463	男	1950代			○	なし					●	オ		
464	男	1970代			○	なし					●	オ		
465	女	1960代			○	なし					●	オ		
466	女	1960代			○	なし					●	オ		
467	女	1950代			○	⑩					●	オ	胆石	
468	男	1960代			○	⑩					●	オ	肝のう胞疑い	
469	女	1960代			○	なし					●	オ		

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
470	男	1960代			○	⑩					●	オ	右嚢胞、脂肪肝	
471	男	1940代			○	⑩					●	オ	肝のう胞	
472	女	1940代			○	⑩					●	オ	右肺尖胸膜肥厚、 左上葉癒痕、肝腫 瘤疑い	
473	女	1970代			○	なし					●	オ		
474	男	1930代			○	なし					●	オ		
475	男	1920代			○	⑥⑩					●	オ	両肺尖部・両上葉 癒痕、右上葉石灰 化結節	
476	男	1930代			○	⑩					●	オ	右中葉・左舌区癒 痕	
477	女	1930代			○	なし					●	オ		
478	男	1950代			○	⑩					●	オ	両肺尖癒痕	
479	女	1970代			○	⑩					●	オ	肝右葉1cm大小腫 瘍	
480	女	1950代			○	なし					●	オ		
481	女	1940代			○	⑩					●	オ	うつ血性変化疑い	
482	男	1950代			○	なし					●	オ		
483	女	1930代			○	②⑩					●	オ	右上葉・左下葉炎 症性変化	
484	女	1910代			○	②					●	オ		
485	女	1930代			○	②⑩					●	オ	胆石術後	
486	男	1930代			○	⑧⑩					●	オ	胆のう結石	
487	女	1940代			○	なし					●	オ		
488	男	1940代			○	なし					●	オ		
489	女	1950代			○	⑧⑩					●	オ	右中葉・左下葉背 側に癒痕性変化	
490	女	1950代			○	⑧					●	オ		
491	男	1930代			○	⑩					●	オ	左嚢胞	
492	女	1940代			○	なし					●	オ		
493	女	1950代			○	⑧⑩					●	オ	右中葉癒痕性変 化、右肋横角消失・ 鈍	
494	男	1950代			○	⑩					●	オ	右肺炎炎症性癒痕	
495	女	1960代			○	なし					●	オ		
496	女	1940代			○	なし					●	オ		
497	女	1950代			○	なし					●	オ		
498	女	1950代			○	なし					●	オ		
499	男	1940代			○	なし					●	オ		
500	男	1950代			○	⑩					●	オ	両側肺野低吸収 域・気腫性変化、両 側のう胞、両肺尖胸 膜肥厚、左腎結石	
501	女	1950代			○	なし					●	オ		
502	女	1940代			○	⑩					●	オ	右肺底部癒痕疑 い、左肺内石灰化 像、両肺側にわず かな胸膜肥厚、右 中葉癒痕	
503	男	1940代			○	⑥⑩					●	オ	左下肺癒痕陰影	
504	女	1940代			○	⑩					●	オ	左舌区炎症性癒 痕、胆石	
505	男	1940代			○	⑩					●	オ	右肋横角鈍化、右 下肺炎炎症性癒痕	
506	男	1940代			○	②					●	オ		
507	女	1940代			○	⑩					●	オ	両下葉背側中心の モザイク様変化	
508	男	1920代			○	⑥⑧⑩					●	オ	左下葉癒痕、食道 裂孔ヘルニア	
509	男	1940代			○	⑧⑩					●	オ	右上葉肺内石灰化 像、右肺底部癒痕	
510	男	1940代			○	②⑩					●	オ	右肺内石灰化像・ 右肺尖胸膜肥厚	
511	女	1960代			○	⑩					●	オ	第5肋骨部分的腫 大(骨折痕疑い)	
512	女	1950代			○	⑧⑩					●	オ	右肺尖肺内石灰化 像・右中葉癒痕・左 横隔膜挙上	
513	男	1960代			○	⑩					●	オ	肋骨の変形石灰化	
514	男	1940代			○	なし					●	オ		
515	女	1940代			○	⑩					●	オ	左下肺炎癒痕	

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (他所見)	備考 (終了理由)
516	女	1940代			○	⑩					●	オ	脾のう胞	
517	女	1940代			○	⑩					●	オ	両側上葉胸膜肥 厚、左肺癒痕性変 化	
518	女	1970代			○	なし					●	オ		
519	女	1940代			○	⑩					●	オ	肝のう胞	
520	女	1950代			○	⑩					●	オ	両肺尖・右中葉・左 舌区炎症性変化	
521	男	1970代			○	なし					●	オ		

ばく露と医学的所見に係わる集計表(奈良県)

A-2表:2008年度受診者③(14名)

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (他所見)	備考 (終了理由)
1	男	1930代	⑩	新所見	○	⑥⑩	●					ア	左傍脊柱部胸膜石 灰化(非プラーク)疑 い	
2	男	1930代	②⑩	不変	○	②⑩	●					ア	左肺尖部癒痕	
3	男	1970代			○	なし	●					ア		
4	男	1940代			○	②③	●				●	ア		
5	男	1920代			○	②				●		エ		
6	女	1960代	③⑩	軽減	—	なし					●	オ		
7	男	1930代	②③	新所見	○	②⑩					●	オ	右S8小結節	
8	男	1950代	⑥⑧⑩	軽減	○	⑩					●	オ	両側肺尖部癒痕、 右横隔膜挙上	
9	男	1960代	⑩	軽減	—	なし					●	オ		
10	女	1960代	③⑩	不変	○	⑧⑩					●	オ	右上葉萎縮、脾腫 大	
11	男	1970代	⑤⑩	新所見	○	⑧⑩					●	オ	両側性癒痕性変化	
12	女	1970代			○	なし					●	オ		
13	男	1960代			○	なし					●	オ		
14	男	1960代			○	なし					●	オ		

ばく露と医学的所見に係わる集計表(奈良県)

A-3表:2007年度受診時の分類条件が①または②で、2008年度は受診していない方(154名)

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職業 あり	イ. 間接職業 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
1	男	1930代	②⑩	受診せず	—	②⑩	●					ア	小結節陰影(右肺)	
2	男	1930代	②⑩	受診せず	—	②⑩	●					ア	左肺炎症性瘢痕、 気管支狭窄	
3	男	1950代	⑩	受診せず	—	⑩	●					ア	肝のう胞	
4	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩	●					ア	肝のう胞、炎症性瘢痕 左下肺両肺炎	
5	女	1950代	なし	受診せず	—	なし	●					ア		
6	男	1920代	②⑩	受診せず	—	②⑩	●					ア	右傍脊柱部胸膜肥厚、 右下肺網状影、 両下肺野優位すりガラス影	
7	男	1920代	⑨⑩	受診せず	—	⑨⑩	●	●				ア	肺線維症、のう胞、 気管支拡張、リンパ 節石灰化	
8	女	1960代	なし	受診せず	—	なし	●	●				ア		
9	女	1930代	②⑧	受診せず	—	②⑧	●		●			ア	小結節陰影	
10	男	1950代	⑤⑥⑨⑩	受診せず	—	⑤⑥⑨⑩	●		●	●		ア	間質性肺炎	
11	男	1930代	⑩	受診せず	—	⑩	●				●	ア	瘢痕性変化(左肺 尖)、左肺門部リン パ節石灰化、胆石	
12	男	1930代	⑧	受診せず	—	⑧	●				●	ア		
13	男	1940代	⑩	受診せず	—	⑩	●				●	ア	術後瘢痕	
14	男	1970代	なし	受診せず	—	なし	●				●	ア		
15	男	1940代	②	受診せず	—	②	●				●	ア		
16	男	1940代	なし	受診せず	—	なし	●				●	ア		
17	男	1930代	⑩	受診せず	—	⑩	●				●	ア	両側肺尖胸膜肥厚	
18	男	1930代	②⑩	受診せず	—	②⑩	●				●	ア	肝のう胞、瘢痕陰影	
19	男	1960代	なし	受診せず	—	なし	●				●	ア		
20	男	1920代	⑩	受診せず	—	⑩	●				●	ア	右上下葉瘢痕、腎 石灰化	
21	女	1950代	なし	受診せず	—	なし	●				●	ア		
22	男	1920代	⑩	受診せず	—	⑩	●				●	ア	心拡大、肝のう胞、 胆管拡張、胆道気 腫、膵管拡張	
23	男	1940代	②	受診せず	—	②	●				●	ア		
24	女	1930代	②⑩	受診せず	—	②⑩	●		●		●	ア	瘢痕性変化	
25	男	1930代	⑩	受診せず	—	⑩	●		●		●	ア	陳旧性炎症性変化 病状肺尖 左上葉のう胞	
26	男	1950代	なし	受診せず	—	なし		●				イ		
27	男	1950代	なし	受診せず	—	なし		●				イ		
28	男	1970代	⑩	受診せず	—	⑩		●				イ	両肺尖両上葉瘢痕 性変化、両肺尖胸 膜肥厚	
29	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩		●			●	イ	肝のう胞、腎のう胞	
30	男	1930代	⑩	受診せず	—	⑩		●			●	イ	肝のう胞	
31	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩		●			●	イ	両側上葉野瘢痕性 変化、両肺尖胸膜 肥厚	
32	女	1960代	なし	受診せず	—	なし		●			●	イ		
33	男	1950代	⑨⑩	受診せず	—	⑨⑩		●			●	イ	左下肺石灰化、両 肺尖部陳旧性炎症 性変化	
34	男	1970代	⑥⑩	受診せず	—	⑥⑩		●			●	イ	両側上肺野優位微 細粒状影、すりガラ ス影	
35	女	1930代	②⑩	受診せず	—	②⑩		●	●		●	イ	右乳がん術後、右 肺胸膜肥厚	
36	女	1950代	⑩	受診せず	—	⑩		●	●		●	イ	寄静脈葉、左上肺 すりガラス様陰影、 炎症性瘢痕	
37	女	1940代	なし	受診せず	—	なし		●	●		●	イ		
38	男	1940代	⑩	受診せず	—	⑩		●		●	●	イ	胆石	
39	男	1950代	②	受診せず	—	②		●		●	●	イ		
40	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩			●			ウ	右中葉小結節炎症 性変化、左舌区炎 症性変化	

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職業 あり	イ. 間接職業 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
41	女	1930代	②	受診せず	—	②			●			ウ		
42	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩			●			ウ	脂肪肝、大動脈石灰化	
43	女	1930代	②⑧⑩	受診せず	—	②⑧⑩			●			ウ	右中葉、左舌区癒痕	
44	女	1960代	なし	受診せず	—	なし			●	●		ウ		
45	女	1940代	②	受診せず	—	②			●	●		ウ		
46	女	1950代	⑥⑩	受診せず	—	⑥⑩			●	●		ウ	間質性肺炎、線維化	
47	女	1940代	②⑩	受診せず	—	②⑩			●		●	ウ	石灰化、肝内石灰化、右上葉癒痕病変疑い、中葉舌区癒痕	
48	女	1940代	⑥⑩	受診せず	—	⑥⑩			●		●	ウ	大動脈周囲石灰化、冠動脈石灰化、間質性肺炎	
49	男	1940代	②	受診せず	—	②			●		●	ウ		
50	男	1940代	②③⑤⑥⑩	受診せず	—	②③⑤⑥⑩			●		●	ウ		
51	男	1950代	⑩	受診せず	—	⑩			●		●	ウ	両側肺尖部のう胞性変化	
52	男	1930代	②⑩	受診せず	—	②⑩			●		●	ウ	左甲状腺腫瘍、左乳腺腫瘍	
53	女	1970代	⑩	受診せず	—	⑩			●		●	ウ	左甲状腺のう胞、左舌区癒痕	
54	女	1930代	⑩	受診せず	—	⑩			●		●	ウ	肝のう胞、右腎のう胞	
55	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩			●		●	ウ	右肺尖陳旧性炎症性変化	
56	女	1940代	②⑩	受診せず	—	②⑩			●		●	ウ	肺尖部胸膜肥厚	
57	女	1930代	②⑩	受診せず	—	②⑩			●	●	●	ウ	肺尖部癒痕	
58	男	1930代	②⑥	受診せず	—	②⑥			●	●	●	ウ		死亡
59	女	1940代	②⑥⑩	受診せず	—	②⑥⑩			●	●	●	ウ	粒状影、炎症性変化	
60	女	1940代	②	受診せず	—	②			●	●	●	ウ		
61	男	1940代	なし	受診せず	—	なし				●		エ		
62	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩				●		エ	右甲状腺のう胞、肝のう胞、左腎のう胞	
63	男	1940代	⑩	受診せず	—	⑩				●		エ	左上葉小石灰化陰影、縦隔リンパ節石灰化	
64	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩				●		エ		
65	男	1940代	⑧⑩	受診せず	—	⑧⑩				●	●	エ	癒痕所見、肺がん術後	
66	男	1930代	②⑩	受診せず	—	②⑩				●	●	エ	血管奇形、冠動脈硬化	
67	男	1950代	②⑥	受診せず	—	②⑥				●	●	エ		
68	男	1930代	⑤⑩	受診せず	—	⑤⑩				●	●	エ	胸膜肥厚	
69	男	1940代	②⑥⑩	受診せず	—	②⑥⑩				●	●	エ	胸膜下結節影、線維化、蜂窩肺所見、脂肪肝疑い	
70	女	1970代	⑩	受診せず	—	⑩				●	●	エ	軽度脾腫	
71	男	1930代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	炎症性癒痕	
72	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	冠動脈硬化	
73	男	1940代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
74	男	1970代	⑧⑩	受診せず	—	⑧⑩					●	オ	のう胞	
75	男	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	癒痕陰影	
76	女	1970代	⑧⑩	受診せず	—	⑧⑩					●	オ	癒痕陰影	
77	女	1970代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	肝のう胞	
78	女	1940代	⑧⑩	受診せず	—	⑧⑩					●	オ	肝のう胞	
79	男	1930代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	炎症性癒痕	
80	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	炎症性癒痕	
81	男	1930代	②③⑦	受診せず	—	②③⑦					●	オ		
82	女	1950代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	右肺尖、炎症性癒痕	
83	女	1980代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
84	男	1950代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
85	男	1940代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
86	男	1940代	⑤⑥⑩	受診せず	—	⑤⑥⑩					●	オ	線維化、肝のう胞	
87	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	両肺尖炎症性変化	
88	女	1930代	②⑥⑩	受診せず	—	②⑥⑩					●	オ	線維化、胸膜下結節影	

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (その他所見)	備考 (終了理由)
89	男	1930代	②⑦⑩	受診せず	—	②⑦⑩					●	オ	気腫性変化、肺気腫	
90	男	1930代	②⑩	受診せず	—	②⑩					●	オ	右中葉癒痕	
91	男	1960代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	心拡大	
92	男	1930代	②⑥⑧⑩	受診せず	—	②⑥⑧⑩					●	オ	肝のう胞、肺内リンパ節石灰化、右上葉癒痕、中葉無気肺、胸骨正中切開術後、心拡大	
93	女	1930代	②⑩	受診せず	—	②⑩					●	オ	胆のう嚢肥厚、右中葉癒痕陰影	
94	男	1920代	②	受診せず	—	②					●	オ		
95	男	1940代	②⑩	受診せず	—	②⑩					●	オ	肺尖部胸膜肥厚	
96	女	1930代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	左舌区肺尖像	
97	女	1940代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
98	男	1940代	②⑦	受診せず	—	②⑦					●	オ		
99	男	1930代	②⑧	受診せず	—	②⑧					●	オ		
100	女	1940代	②	受診せず	—	②					●	オ		
101	男	1940代	⑥⑩	受診せず	—	⑥⑩					●	オ	線維化、肺気腫、肺尖部胸膜影、右中、左下癒痕	
102	男	1920代	②⑥⑩	受診せず	—	②⑥⑩					●	オ	間質性肺炎	
103	女	1920代	②⑩	受診せず	—	②⑩					●	オ	炎症性癒痕	
104	女	1920代	②⑥⑩	受診せず	—	②⑥⑩					●	オ	線維化	
105	女	1920代	⑧⑩	受診せず	—	⑧⑩					●	オ	左肺尖部癒痕影	
106	女	1930代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	炎症性変化、右乳房切除	
107	女	1940代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
108	女	1930代	③⑩	受診せず	—	③⑩					●	オ	両肺尖部癒痕	
109	女	1960代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
110	男	1940代	②	受診せず	—	②					●	オ		
111	女	1940代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
112	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	炎症性変化	
113	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	左上葉、右中葉癒痕	
114	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	左肺底部癒痕	
115	男	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	右上中葉癒痕	
116	女	1960代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
117	女	1970代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
118	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	右中葉、左舌区癒痕	
119	男	1960代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	右中葉癒痕	
120	男	1940代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
121	男	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	肺のう胞、肝のう胞	
122	男	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	心拡大、冠状動脈石灰化	
123	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	肝硬変、脾腫、冠動脈石灰化	
124	女	1940代	⑤⑩	受診せず	—	⑤⑩					●	オ	左上葉癒痕、右上葉のう胞	
125	女	1950代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	両肺尖陳旧性炎症性変化	
126	女	1930代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	左腎のう胞、大動脈石灰化	
127	男	1970代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
128	女	1940代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
129	男	1950代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	軽度脂肪肝	
130	女	1950代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	右上肺のう胞、両肺尖陳旧性炎症性変化	
131	女	1950代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	胆石	
132	女	1930代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	左肺多発性限局性濃度上昇のう胞	
133	女	1940代	⑨	受診せず	—	⑨					●	オ		
134	女	1950代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	陳旧性炎症性変化	
135	男	1960代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	脂肪肝	
136	女	1930代	③⑨	受診せず	—	③⑨					●	オ		
137	女	1940代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
138	女	1950代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
139	男	1980代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
140	女	1950代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
141	男	1950代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
142	男	1950代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	両側肺尖胸膜肥厚	

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (他所見)	備考 (終了理由)
143	女	1970代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	右乳房小石灰化	
144	女	1930代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	両肺尖上肺癒痕性 変化	
145	男	1950代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
146	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	中葉舌区癒痕、肝 臓、脾臓、腹膜リン パ節石灰化	
147	男	1940代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
148	女	1980代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		
149	女	1940代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	両肺尖癒痕、左甲 状腺腫瘍	
150	男	1920代	②⑩	受診せず	—	②⑩					●	オ	気腫性変化、癒痕 性変化散在、	
151	女	1970代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	脾腫	
152	男	1960代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	右下葉、左下葉癒 痕、両側肺尖胸膜 肥厚	
153	男	1970代	⑩	受診せず	—	⑩					●	オ	右肺尖部のう胞	
154	女	1950代	⑧	受診せず	—	⑧					●	オ		

ばく露と医学的所見に係わる集計表(奈良県)

A-4表: 2007年度の分類条件③で受診し2008年度は受診していない方(4名)

No.	性別	生年 (西暦)	2007年度 所見	2008年度 X線所見	2008年度 CT	最新の 所見	ア. 直接職歴 あり	イ. 間接職歴 あり	ウ. 家族内 ばく露あり	エ. 立入・屋内 環境ばく露 あり	オ. その他	ばく露歴 分類	備考 (他所見)	備考 (終了理由)
1	男	1930代	②⑩	受診せず	—	②⑩	●					ア	肝のう胞	
2	女	1940代	②⑩	受診せず	—	②⑩	●		●		●	ア	炎症性変化、気管 支拡張	
3	男	1960代	なし	受診せず	—	なし		●				イ		
4	男	1970代	なし	受診せず	—	なし					●	オ		